

外国人住民の家族と暮らし
—豊岡での生活・母国との関係を中心に—
Life and Family for Toyooka Foreign Residents: Examining Resident
Livelihoods and Home Country Relations

平井 晶子 (神戸大学)
HIRAI Shoko (Kobe University)
hirai@penguin.kobe-u.ac.jp

1. はじめに

地方における外国人住民については、「女性は結婚」「男性は労働」で注目されることが多かった。しかし近年では女性が介護職や技能実習生/インターンシップ生として活躍するなど多様性がみられる。

本報告では、豊岡市の人口の 1%を占めるすべての外国人住民を念頭に、彼らの家族構成や地域とのかかわり、就業状況、母国との関わりについて検討する。

2. 資料と方法

本報告で用いる資料は、兵庫県豊岡市で 2019 年に実施した調査票調査「豊岡市外国人住民に関する調査 (個人調査)」のデータ、および 2019 年以降継続的に行ってきたインタビュー調査資料である。調査票は日本語、英語、中国語、タガログ語、ベトナム語、やさしい日本語など 9 バージョンで作成し、市内在住の 18 歳以上の全外国人 701 人に郵送し、272 人から回答を得た (有効回収率 38.8%)。また国際結婚女性や技能実習生を中心に 100 名以上の方にインタビューを実施した。これらを総合的に使用する。

分析では外国籍の住民を在留資格により 2 つに大別する。ひとつが「永住者/特別永住者/定住者/日本人の配偶者等/永住者の配偶者等」といった身分や地位に基づく在留資格をもつグループ (以下、「長期」) であり、もうひとつが「技能実習/特定活動/専門・技術/留学など」活動に関する制限が設けられたグループ (以下、「中期」) である。

3. 分析 (1) : 外国人住民「長期」の家族と暮らし

家族構成

- ・女性 : 核家族 6 割、夫の親との同居 1/4
- ・男性 : 核家族 4 割、単身者 35%

子どもの有無

- ・女性 : 子どもがいる 7 割 (日本にいる、母国にいる、両方にいる)
- ・男性 : 子どもがいる 5 割 (日本にいる、母国にいる、両方にいる)

就業状況

- ・女性 8 割就業 (パート・アルバイト 43%、契約社員 33%、正社員 15%)

- ・男性 8 割就業（契約社員 52%、正社員 21%、自営業 9%）

母国への仕送り

- ・男女とも母国に子どもがいる場合は送金、それ以外では送金は半数弱

小括

男女とも労働市場でも家庭でも活躍＝地域にとって貴重な「若手」人材
「グローバルな世帯保持」機能：半分

4. 分析 (2)：外国人住民「中期」の家族と暮らし

家族構成

- ・男女とも友人と暮らすケースが多い

母国との関係

- ・母国に子どもがいるケースもあり（女性の 2 割、男性の 1 割）
- ・母国に子どもがいる場合は送金あり

小括

目的の多様化：出稼ぎ型／自己実現型

課題：日本語学習/地域住民との関わり

5. むすび

外国人住民は「女性は結婚」「男性は労働」と見られがちであったが、現実には性別に関係なく「仕事」でも「家庭」でも重要な役割を担っていた。外国人妻たちの実家との関係でも変化は生じており、「グローバルな世帯保持」機能も結婚から 10 年、20 年と経過するなかで（日本の経済力が相対的に低下するなかで変化していた。

地域社会のなかでは、漠然と外国人住民を「サポートする対象」と捉えがちであるが、実際には地域社会の貴重な「若手」であり、様々な分野で重要な担い手として不可欠な存在となっている。定住を考えている「長期」の人だけが地域の主要な担い手なのではなく、3 年から 5 年の「中期」の人であってもそうである。彼らの重要な役割を可視化し、さらに活躍できる環境を作っていくことが求められる。

主な参考文献

伊藤るり・足立真理子編著 2008 『国際移動と＜連鎖するジェンダー＞：再生産領域のグローバル化』 作品社

徳宮俊貴 2021 「大卒技能実習生の特徴とベトナムにおけるその背景：兵庫県豊岡市における外国人住民調査より」『社会学雑誌』 38

藤井勝 2013 「現代の東アジアと国際結婚」『社会学雑誌』 30

藤井勝・平井晶子編著 2019 『外国人移住者と「地方的世界」：東アジアにみる国際結婚の構造と機能』 昭和堂